

ゆめ・ぽけっと ほけんだより R8年10月号

朝晩少しずつ涼しくなっていますが、日中は夏のように暑い日もあります。小さい子どもは体温調整が苦手です。衣服の調整をし、風邪を引かないように注意しましょう。

10月10日は「目の愛護デー」

生まれたばかりの赤ちゃんの視力は0.02～0.04くらいで、成長とともに6歳頃には大人と同程度の見る力を獲得します。見る力は、目から情報を取り入れ、脳で処理することを毎日繰り返して育ちます。この視覚刺激の経路は生まれたときからつながっているのではなく、何度も繰り返して物を見ているうちに徐々にその経路がつながってきて、その結果視力が出るようになります。見る力を育てるためには、脳に視覚刺激に対する感受性がある時期に刺激を受けることが大事ですが、その感受性がある時期は6～8歳くらいで消失すると言われています。何らかの理由で脳に視覚刺激が届いていない乳幼児には感受性があるうちに治療しなければ、視力を伸ばすことが出来ません。視覚に関する病気などは早期に発見し、早期に治療や対処をすることが重要になります。

こんなサインに注意しましょう



●頭をかたむけたり
顔を曲げたりして物を見る



●目を細める



●横目で見る



●片目をつぶって見る



●片方の目の焦点が合わない

その他の症状も・・・

- 瞳が白く見える、または光って見えることがある
- 目の大きさや瞳の形がおかしい
- まぶたが開かない
- 黒目が白く濁っている、まぶしくて目が開けられない、極端にまぶしさを感じる
- 物をじっと見つめたり、目で追ったりしない
- 両方の眼球が揺れる、目の動きがおかしい
- 極端に物に近づいて見る
- 子どものころに目の病気になったご家族や親族がいる

子どもは生まれた時からぼやけて見えているので見え方に異常があっても違和感や、不自由を感じません。他の子どもと比べても見えにくそうな様子がないため気づきにくいです。目の病気を疑う症状の見つけることに加えて、症状がなくても健診をしっかり受けることが大切です。



インフルエンザの予防接種が始まります

予約が始まっている病院もあります。
希望される方はかかりつけの病院に問い合わせましょう。

